

新春議員アンケート調査結果

個人消費の回復がカギに

富山商工会議所 / 専門相談課

景気は設備投資と輸出の堅調さに支えられ、「いざなぎ景気」を抜いて戦後最長になった。しかし一部の業種や中小企業経営者などからは、依然として実感が伴わないとの声が多いことも事実である。また海外情勢などの変化によっては減速する懸念も指摘されている。こうした中、平成 19 年の富山の景気はさらに拡大基調を持続することができるか、当所議員にその見通しなどについて調査した。

< 調査結果の概要 >

平成 19 年の国内景気の見通しは「現状が続く」が 67.1%、「緩やかに好転する」が 20.7%であり、全体として横ばいで推移すると見る答えが多かった。

景気動向に関して注目しているポイントとしては、「個人消費の回復」が 58.5%で最も多く、次いで「アメリカの景気」(40.2%)などとなった。

経営上の問題点については「新製品の開発」が 37.8%で「販売競争の激化」(62.2%)に次いで 2 位になった点が注目される。消費者ニーズの変化などに対応した企業の取り組みが伺える結果とも考えられる。

当所に対して期待することについては、前年と同じく「富山のまちづくりへのリーダーシップと実現力」が 47.6%で 1 位になったが、前年の 72.1%より 24.5 ポイントも減少しており、「ものづくり基盤の維持・強化への支援」(25.6%)などへ期待する内容が多様化していることを示す結果となった。

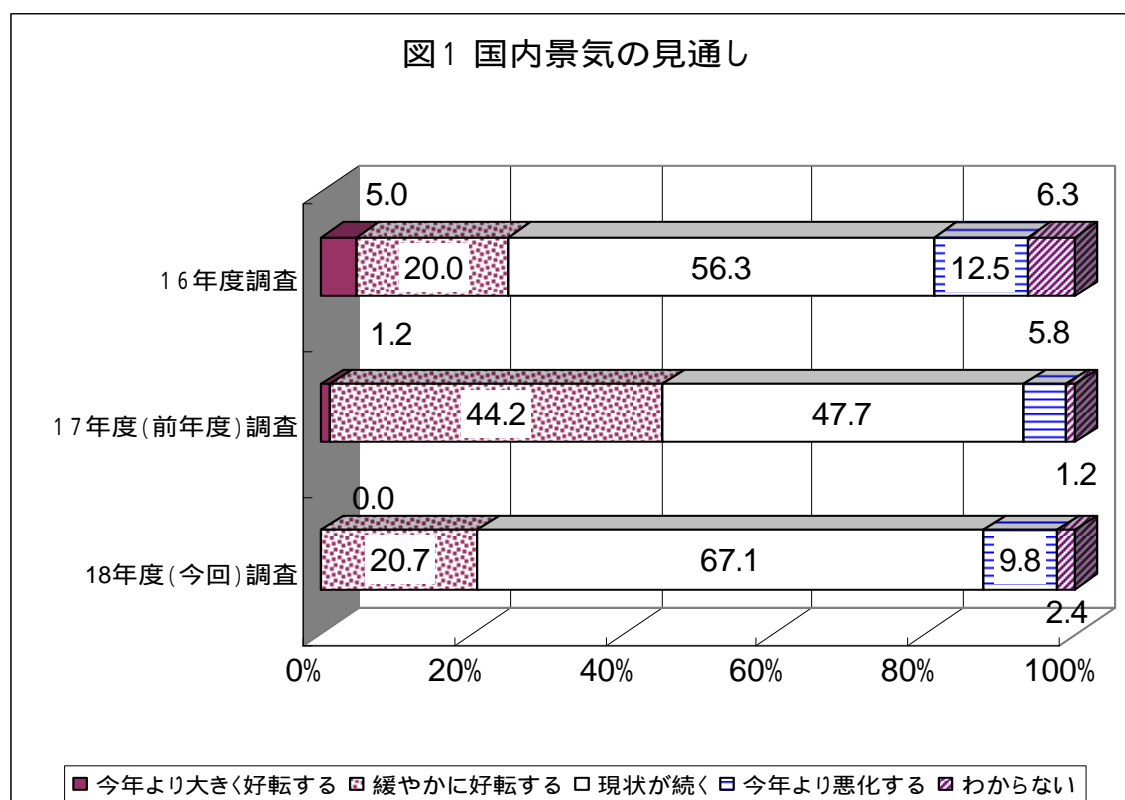
調査実施要領

調査時期	平成 18 年 11 月
調査対象	富山商工会議所議員 126 名
調査方法	調査票をファックスで配布し、回収した
回収数	82 名 (回収率 65.1%)

調査結果

1. 平成 19 年の国内景気の見通し

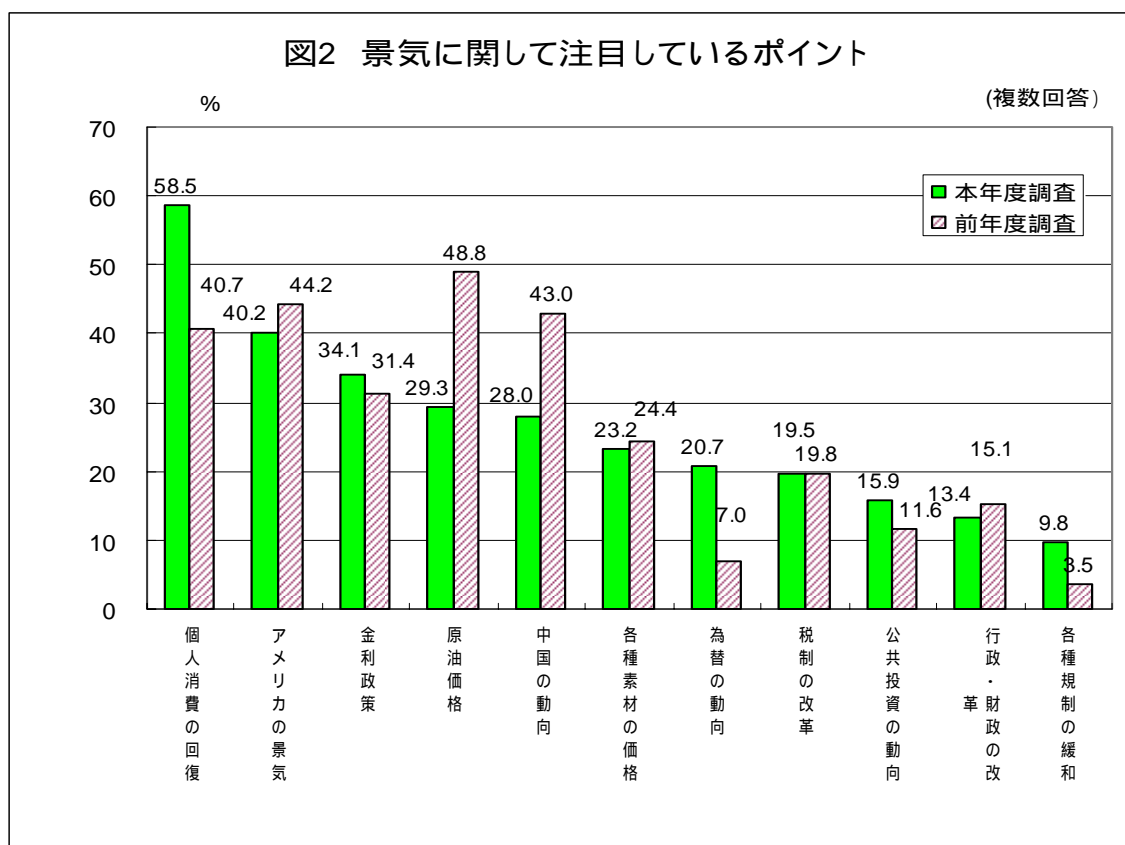
平成 19 年の国内景気の見通しを尋ねた結果が、図 1 である。これをみると、「現状が続く」が 67.1%、「緩やかに好転する」が 20.7%で、「今年より悪化する」は 9.8%だった。「今年より大きく好転する」は 0%であり、これに「緩やかに好転する」を合計した“好転見通し”(20.7%)は、前年度調査の 45.4%に対し大きく減少し、16 年度調査(25.0%)をも下回った。また「現状が続く」は前年度調査(47.7%)を大きく上回っており、全体としては、平成 19 年の景気は横ばいで推移するものと予測する経営者が多いことがわかる。



2. 景気動向に関する注目点

景気動向に関して注目しているポイントを複数回答でたずねたところ、図 2 のとおり、最も多かったのは「個人消費の回復」で 58.5%、次いで「アメリカの景気」が 40.2%「金利政策」が 34.1%などとなった。

「個人消費の回復」は前年度調査(40.7%)に比べ 17.8 ポイントの増となり、今後の景気持続のカギとして個人消費の伸びが期待されている様子を示す結果となった。なお、「原油価格」は 29.3%であり、価格高騰が落ち着きを見せていることを背景に前年度調査(48.8%)から 19.5 ポイント減となった。



3. 経営上の問題点

経営上の問題点について複数回答でたずねたところ、図3のとおり、最も多かったのは「販売競争の激化」で62.2%、次いで「新製品の開発」が37.8%、「収益の悪化」が34.1%となった。このうち「新製品の開発」は昨年調査(23.3%)より14.5ポイント増となり、技術革新や消費者ニーズの変化などに対応した企業の取り組みが伺える結果となった。また、「売上(受注)の減少」は13.4%で前年調査(39.5%)に対して26.1ポイントの大幅減であり、緩やかな景気回復の中、売上そのものはある程度達成している企業が多いとも考えられる。

なお「その他」の自由記入欄には人材確保・育成に関する回答が目立った。

4. 当所に対して期待すること

富山商工会議所に対して期待することは何かを複数回答でたずねたところ、図4のとおり「富山のまちづくりへのリーダーシップと実現力」が47.6%と最も多かったが、前年調査(72.1%)より24.5ポイント減少しており、当所に期待する内容が多様化していることを示す結果となった。特に「ものづくり基盤の維持・強化への支援」が25.6%と前年調査(11.6%)から14.0ポイント増加したことは、当所の工業振興に関する事業の強化を期待する声と考えられる。

* コメントにある前年度調査との比較では、選択肢などに一部入れ替えがあるため、厳密な意味での比較ではありません。

図3 経営上の課題

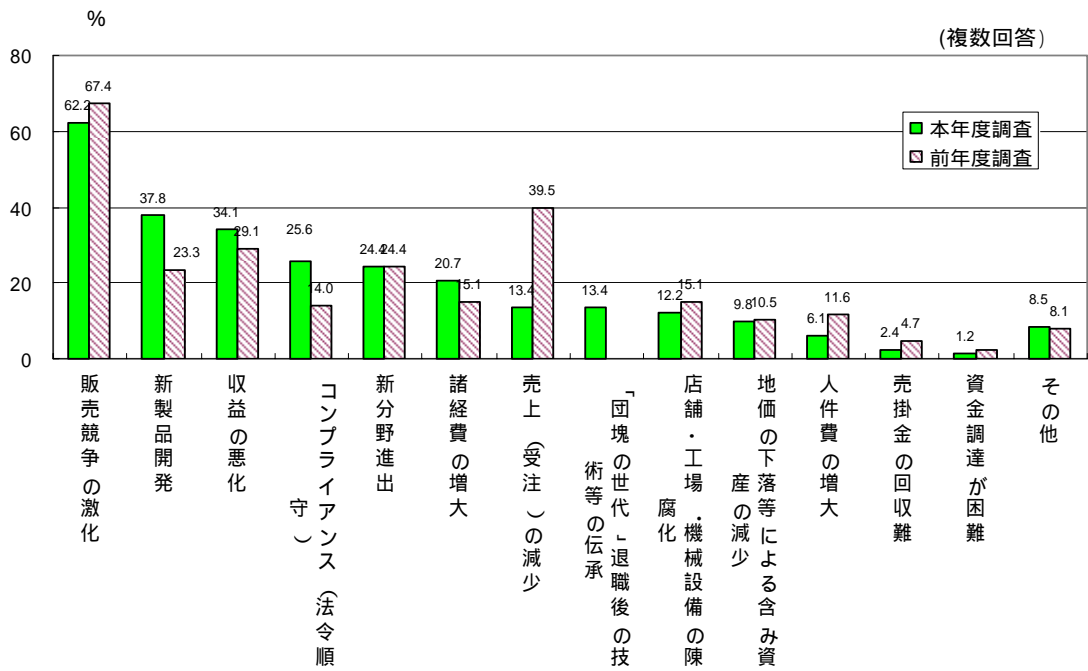


図4 当所に対して期待すること

